

# Asia Indicators

発表日: 2023年6月16日(金)

インド、生活必需品にインフレ圧力も、インフレ率は一段と鈍化(Asia Weekly(6/12~6/16))

~オーストラリアの雇用環境は質・量の両面で改善の動きが続いている~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522/050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/12(月)	(インド)5月消費者物価(前年比)	+4.25%	+4.42%	+4.70%
	4月鉱工業生産(前年比)	+4.2%	+1.8%	+1.7%
6/14(水)	(韓国)5月失業率(季調済)	2.5%	--	2.6%
6/15(木)	(ニュージーランド)1-3月実質GDP(前年比)	+2.2%	+2.6%	+2.3%
	(オーストラリア)5月失業率(季調済)	3.6%	3.7%	3.7%
	(フィリピン)4月海外送金(前年比)	+3.7%	--	+3.0%
	(中国)5月鉱工業生産(前年比)	+3.5%	+3.6%	+5.6%
	5月小売売上高(前年比)	+12.7%	+13.6%	+18.4%
	5月固定資産投資(年初来前年比)	+4.0%	+4.4%	+4.7%
	(インドネシア)5月輸出(前年比)	+0.96%	▲8.70%	▲29.42%
	5月輸入(前年比)	+14.35%	▲11.00%	▲22.32%
	(台湾)金融政策委員会(政策金利)	1.875%	1.875%	1.875%
	(インド)5月輸出(前年比)	▲10.3%	--	▲12.5%
5月輸入(前年比)	▲6.6%	--	▲14.1%	
6/16(金)	(シンガポール)5月非石油輸出(前年比)	▲14.7%	▲8.1%	▲9.8%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

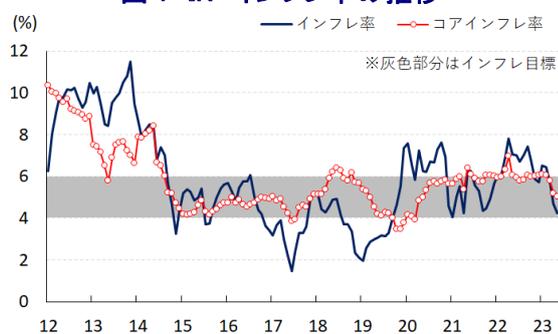
## [インド]~生活必需品にインフレ圧力はくすぶるも、インフレ率とコアインフレ率はともに一段と伸びが鈍化~

12日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+4.25%となり、前月(同+4.70%)から鈍化して28ヶ月ぶりの低い伸びとなっている。ただし、前月比は+0.51%と前月(同+0.51%)と同じペースでの上昇が続いており、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇の動きを強めているほか、原油の国際価格は調整の動きを強めているものの、エネルギー価格は上昇の動きが続くなど生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+5.02%と前月(同+5.19%)から伸びが鈍化しており、インフレ率とともに中銀(インド準備銀行)が定めるインフレ目標(4~6%)の範囲内で推移している。前月比は+0.30%と前月(同+0.59%)から上昇ペースは鈍化しており、エネルギー価格が落ち着きを取り戻していることを受けた輸送コストの安定により財価格に対する押し上げ圧力が幾分後退しているほか、サービス物価の上昇ペースも鈍化するなど幅広くインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

また、同日に発表された4月の鉱工業生産は前年同月比+4.2%となり、前月（同+1.7%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。鉱物資源など一次産品関連の生産が底打ちの動きを強めているほか、資本財や中間財、消費財など幅広い分野で生産が底入れの動きを強めるなど、生産活動が活発化している様子がうかがえる。消費財のなかでは耐久消費財のみならず、非耐久消費財の生産も大きく底入れしており、自動車関連や電気機械関連などの製造業の生産活動も活発化するなど、内需の堅調さを期待した動きが広がりを見せていると捉えられる。

15日に発表された5月の輸出額は前年同月比▲10.3%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲12.5%）からマイナス幅は縮小している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比はわずかながら3ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いている。財別では、価格下落の動きを反映して石油製品の輸出額に下押し圧力が掛かっているほか、機械製品関連や宝飾品、化学製品関連など幅広く輸出も下振れするなど、世界経済の減速懸念の高まりが輸出の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比▲6.6%と5ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移するも、前月（同▲14.1%）からマイナス幅は縮小している。前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じているほか、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出と対照的に底入れの動きを強めている。財別では、金をはじめとする宝飾品や原油をはじめとする鉱物資源関連の輸入は弱含む推移が続く一方、電気機械関連や金属関連の輸入の堅調な動きが輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は▲221.20億ドルと前月（▲151.45億ドル）から赤字幅が拡大している。

図1 IN インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 IN 鉱工業生産の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図3 IN 貿易動向の推移

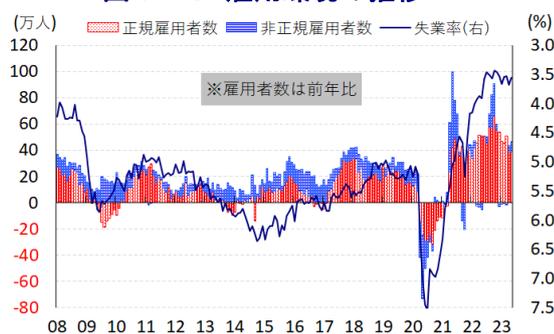


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

## [オーストラリア]～都市部を中心に雇用拡大が続き、労働市場への参入意欲を反映して労働参加率も高止まり～

15日に発表された5月の失業率(季調済)は3.6%となり、前月(3.7%)から0.1pt改善している。失業者数は前月比▲1.7万人と前月(同+2.3万人)から2ヶ月ぶりの減少に転じており、雇用形態別では非正規雇用に対する求職者数(同+0.0万人)は横這いで推移する一方、正規雇用に対する求職者数(同▲1.7万人)の減少が全体を下押ししているほか、中期的な基調も減少傾向で推移するなど調整の動きが続いている。一方の雇用者数は前月比+7.6万人と前月(同▲0.4万人)から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、雇用形態別でも非正規雇用者数(同+1.4万人)のみならず正規雇用者数(同+6.2万人)もともに拡大しているほか、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが続いている。地域別でも最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州や、第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州、第3の都市ブリスベンを擁するクイーンズランド州など大都市部を中心に雇用拡大の動きが確認される一方、資源関連産業が集中する西オーストラリア州では雇用調整圧力が強まる動きが確認されるなど対照的な動きもみられる。なお、雇用環境の改善の動きを受けて労働力人口は前月比+5.9万人と前月(同+1.9万人)から拡大ペースが加速するなど労働市場への参入意欲は高く、こうした動きを反映して労働参加率も66.9%と前月(66.7%)から+0.2pt上昇して過去最高水準で推移している。労働需給のひっ迫感の高まりが賃金上昇圧力を招くなか、7月からは最低賃金の大幅引き上げも実施されるなどインフレ圧力が高まりやすい状況が長期化することも予想される。

図3 AU 雇用環境の推移



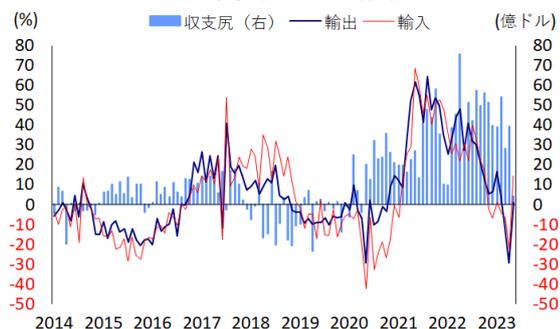
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

## [インドネシア]～頭打ちが続いた輸出入双方に底打ち感も、輸入の大幅な底入れを反映して貿易黒字は縮小～

15日に発表された5月の輸出額は前年同月比+0.96%となり、前月(同▲29.42%)から3ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど頭打ちが続いた流れに底打ち感が出ているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど、依然として流れが大きく変化する状況とはなっていない。財別では、価格下落も影響して原油や石油精製品のほか、鉱物資源関連の輸出は下振れする一方、農産品や製造業関連の輸出が拡大に転じていることが輸出全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+14.35%となり、前月(同▲22.32%)から4ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出と対照的に底入れの動きが強めている様子がうかがえる。財別では、価格下落にも拘らず需要拡大の動きを反映して原油輸入が拡大しているほか、製造業関連の輸入も大きく上振れして輸入全体を押し上げている。結果、貿易収支は+4.37億ドルと前月(+39.36億ドル)か

ら黒字幅が大きく縮小している。

図4 ID 貿易動向の推移

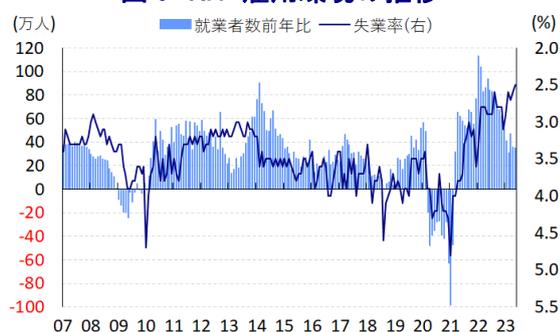


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [韓国]～若年層や働き盛り世代を中心に雇用改善の動きが確認されるなど、雇用を取り巻く環境に変化の兆し～

14日に発表された5月の失業率(季調済)は2.5%となり、前月(2.6%)から0.1pt改善して過去最低水準を更新している。失業者数は前月比▲2.5万人と前月(同▲2.3万人)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向を強めるなど調整の動きが進んでいる様子が見えてくる。年代別では60代以上の高齢層で拡大する動きが確認される一方、20代や30代などいわゆる『働き盛り世代』を中心に減少の動きが確認されている。一方の雇用者数は前月比+9.2万人と前月(同▲4.7万人)から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大の動きが続くなど底入れの動きを強めている。年代別でも、60代以上の高齢層を中心に減少している一方、20代や30代などで拡大の動きを強める動きが確認されるなど、雇用を取り巻く環境が改善している様子が見えてくる。雇用形態別でも、非正規雇用を中心に調整の動きが続く一方、正規雇用で拡大する動きが確認されており、質的にも雇用を取り巻く環境が改善していると捉えられる。なお、労働力人口は前月比+0.7万人と前月(同▲0.7万人)から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、年代別では20代や30代を中心に労働市場への回帰が進んでおり、こうした動きを反映して労働参加率も64.4%と前月(64.3%)から0.1pt上昇している。これまでは高齢層を中心とする雇用回復の動きが続いてきたものの、足下においては若年層や働き盛り世代が雇用回復動きをけん引するなど対照的な状況にあるなど、雇用を取り巻く環境に変化の兆しが出ていると判断出来る。

図5 KR 雇用環境の推移



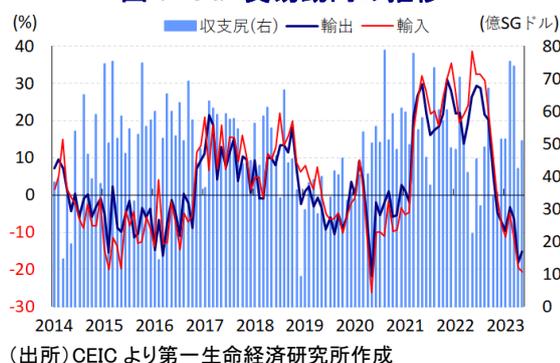
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [シンガポール]～世界経済の減速、商品市況の調整の動きを反映して、輸出入双方に下押し圧力が掛かる～

16日に発表された5月の非石油輸出は前年同月比▲14.7%と8ヶ月連続で前年を下回る伸びとなっ

ている上、前月（同▲9.8%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲14.55%と前月（同+2.58%）から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いている。財別では、主力の輸出財である電子部品関連や電気機械関連のほか、化学製品関連の輸出に幅広く下押し圧力が掛かる動きがみられる。石油製品関連を併せた総輸出額は前年同月比▲15.2%と7ヶ月連続で前年を下回る伸びとなっているものの、前月（同▲18.1%）からマイナス幅は縮小している。前月比は▲4.7%と前月（同▲4.9%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちが続いている。一方の輸入額は前年同月比▲20.7%と7ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲19.7%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲6.7%と前月（同▲2.4%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きが続いている。財別では、電気機械関連や化学製品関連などのほか、商品市況の調整の動きを反映して鉱物資源関連の輸入に下押し圧力が掛かるなど、幅広く輸入が下振れしている様子がうかがえる。結果、貿易収支は+50.80億SGドルと前月（+42.49億SGドル）から黒字幅が拡大している。

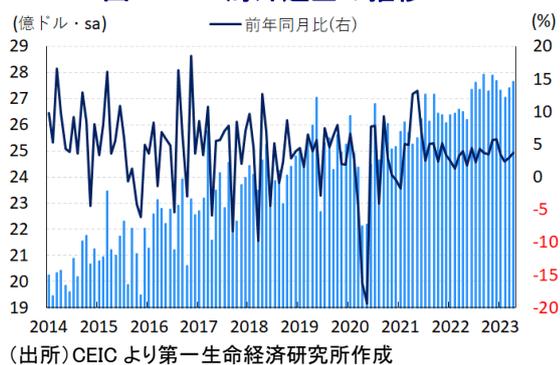
図6 SG 貿易動向の推移



#### [フィリピン]～移民送金は堅調に推移し、ペソ安に伴いペソ建換算も押し上げられるなど、内需の下支えに期待～

15日に発表された4月の海外移民労働者による送金流入額は前年同月比+3.7%となり、前月（同+3.0%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。さらに、国際金融市場においては通貨ペソの対ドル相場が調整の動きを強めていることを受けてペソ建で換算した流入額は押し上げられており、GDPの1割に相当する移民送金の堅調な流入は家計消費など内需を下支えすることが期待される。世界経済の減速懸念が高まっているにも拘らず、全体の4割強を占める米国からの流入が引き続き底堅く推移しているほか、中東やアジアからの流入も堅調な推移が続いている。

図7 PH 海外送金の推移



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

